

# 未来 ひだか

みらくる

日高農業改良普及センター



## 日胆いちご栽培情報交換会を開催しました！

令和2年11月10日、新ひだか町公民館において、日胆いちご栽培情報交換会を開催しました。交換会には、日胆地区のいちご農業者のほか、町、JA、試験場、振興局、普及センター職員など64名が出席しました。

話題提供として、普及センターより「道内の四季成りいちごを巡る情勢」と題して、いちごの輸入量や栽培面積・品種の状況、着色不良果に関する事例紹介、発生要因の解明に向けた現地での取り組みについて報告しました。このほか、北海道立総合研究機構と農政部技術普及課の担当者より「中国のいちご情勢」、「いちご高設栽培における低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒による萎黄病の防除対策」、「苫東ファーム（株）における取り組み状況と実証試験結果」の報告や話題提供が行われました。

質疑応答および情報交換では、活発な質疑と各産地より本年の一季成り・四季いちごの生育や販売状況などについて情報交換が行われました。

今回の研修会は7年ぶりの開催となりました。普及センターでは、今後もいちご生産の一層の振興に向けた取り組みを行っていきます。



質疑応答の様子

# 参考にしよう！ 地域の活動事例

## 新冠町における新規参入者の定着に向けた支援

【本所 地域第1係】

新冠町では、地域おこし協力隊事業を活用し、就農希望者を「農業支援員」として受け入れています。研修期間は、施設園芸3年・酪農2年を設け、新冠町地域担い手育成総合支援協議会では、就農後5年間まで巡回指導や定期的な状況報告、検討を行い、地域への定着と目標所得の確保のために支援しています。令和2年度は、新たに3戸（ピーマン2戸、酪農1戸）が農業支援員として研修を開始しました。

今年度から新たな支援の取り組みとして、年2回の合同巡回（町・JA・普及センター）を実施し、支援における情報の共有化や課題の整理を行いました。また、冬期講座のカリキュラムの見直しに向けて、研修中や就農後に活用しやすい内容となるよう関係機関で協議し、農業支援員を対象に講座を開催しました。

今後も農業支援員が、充実した研修期間の後に就農・定着していけるよう、支援を継続します。



新規就農者巡回（左：ピーマン農家、右：畜産農家）



冬期講座（ピーマン根張り調査）

## 黒毛和種繁殖牛の計画的な更新支援！

【本所 地域第2係】

平成28年より重点地区の浦河町富里地区で、黒毛和種繁殖経営農業者を対象に育種価（親牛から子牛に伝えられる遺伝的能力）情報を活用した、繁殖牛の計画的な更新を支援しています。

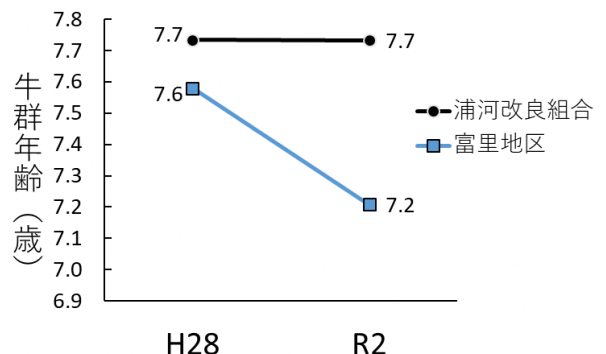
（一社）北海道酪農畜産協会より定期的に更新される、育種価情報が見える化した資料「黒毛牛群管理ソフト（畜産試験場作成）」を用いて、農業者に情報提供しています。

この資料は、育種価情報に加えて、繁殖成績、体格（審査得点）も見やすくまとまっております。農業者が淘汰牛、自家保留牛の選定の参考になるように工夫されています。

重点地区では、令和2年の牛群年齢は活動当初（H28）と比較して0.4歳の若返りが図られました。今後も、地域の黒毛和種繁殖経営の安定化に向け、活動を継続していきます。



重点地区農家（左）への情報提供



重点地区（富里）の牛群年齢推移

# 参考にしよう！ 地域の活動事例

## トマトの環境モニタリング生育調査について

【西部支所】

西部支所では、平取町内で令和元年からトマトの環境モニタリング調査を行っています。これは、環境モニタリング機器「みどりクラウド」を設置したハウスで、トマトがどのような環境で生育しているのかを把握するものです。

環境モニタリング機器は、ハウス内の気温、湿度、二酸化炭素、日射量、地温、土壌水分を計測することが出来ます。さらに、気温・湿度・二酸化炭素から飽差※を調べたりカメラによりハウス内の状況を把握することが出来ます。

調査ハウスではトマトの生育調査を実施し、トマトの伸長量、茎周、生葉数、果数等を計測します。これらから総合的な株の生育を判断し、結果を農業者に返してトマト栽培の見える化を行っています。

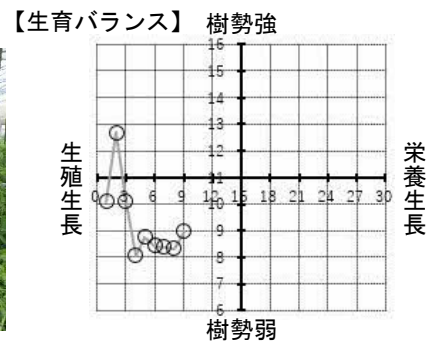
今後は、2年間の活動から地域のトマト栽培で見えてきた課題を整理し、現地課題として試験を実施する予定です。最終的には、地域のトマト栽培の収量向上を目標として活動を展開します。



みどりクラウド



生育調査



「見える化」結果

※飽差：飽和水蒸気量と絶対湿度の差。二酸化炭素の吸収に関係する。

## 日高管内指導農業士・農業士会の現地研修会が開催されました！

【広域班】

令和2年11月9日、平取町にて管内指導農業士・農業士会の現地研修会が開催され、会員をはじめ、次代を担う青年農業者ゼミナールの受講生、町、JA、振興局、普及センター職員の参加（35名）がありました。

現地研修会では、日高町の平賀修指導農業士から、「自家のいちご経営の確立」についてお話を受けました。栃木県から導入した品種「雷峰」を、試行錯誤を重ねながら栽培技術を確認、日高地域の主力品種の「すずあかね」の作付と合わせ通年栽培を実現しています。

また講演会も開催されJAびらとりの営農部から、「選ばれる産地」を目指したトマト販売の体制確立および、農業者の求人マッチングアプリの活用について紹介されました。

現地研修会・講演会共に多数の質問があがり、充実した研修会となりました！



イチゴの説明をされた平賀指導農業士(右)



講演会 JAびらとり横堤部長(左)と藤本次長(右)

## 「花いっぱいプロジェクトで心に潤い！」

【本所 第1係 新ひだか町】

昨年は新型コロナウイルスの影響で行事等が自粛され、花の需要が減少しました。そこで職場や家庭に花を飾り、産地や農業者を応援しよう！というプロジェクトが日高でも行われました。普及センターでは三石産のデルフィニウムを玄関ホールに飾り、目を楽しませてもらいました。

また新ひだか町では、事業所等に花を飾る「花のある暮らしづくり」が実施されました。8～9月の2ヶ月間普及センターは花に囲まれ、癒やされた毎日でした。毎日の生活にお花をプラス！で北海道産のお花を飾ってみませんか！！



## 「日高管内のGAP取り組み状況」

【広域班】

道内での、国際水準GAP（JGAP・ASIAGAP）の認証数は315農場です（R2.10月末現在）。

日高管内は3農場が認証取得しました。更に2農場が認証取得に向け、GAPに取り組んでいます。

また中央会やホクレンが中心となる「北海道米あんしんネットGAP」「JAグループ北海道畑作物GAP」や、JAびらとりトマト胡瓜部会は独自GAPに取り組み、販売先の信頼にも繋がっています。

認証取得した農場からは、「生産した農産物への自信に繋がった」と感想がありました。GAPを通じて安全・安心な農畜産物の生産を目指し、自信ある日高の農業をPRしましょう！「すごいっしょ！日高の農業」。



JGAP(穀物・青果物)の認証  
を取得した日高町里平 田中農園  
「穀物(米)認証は日高管内初！」  
(管内では、3カ所目の認証)

## 「新人普及員、ただいま奮闘中。先輩とともに現場を駆け巡る！」【西部支所】

令和2年度採用の富樫麻衣さんは福岡県出身。牛が好きすぎて帯広畜産大学で学び、「うしぶ」に所属していたほどの正真正銘の牛好きです。卒業後は福祉関係の仕事に従事しつつも、牛への愛がとどまらず、社会人枠で普及職員となりました。当地区では念願の畜産担当としてデビューしました。

コロナ禍により現地に出る機会が少ない中でも、庁舎花壇に牧草試験ほを設置するなど意欲的に取り組んでいます。これからは関係機関とともに、牛舎に顔を出す機会が増えると思いますので、牛に思う存分ふれさせてあげて下さいね！（F専門主任）



日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521  
〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918  
〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/>

